

スマホ利用者のライフスタイル研究Ⅱ

—小中学生でスマホを持たせる親の特性—

○水野 一成, 近藤 勢津子 (NTTドコモ モバイル社会研究所), 飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

キーワード: ライフスタイル, 小中学生, スマートフォン

1. 研究背景と目的

小中学生のスマホ所有率は、モバイル社会研究所が2021年10月に調査した結果によれば、小学生低学年では15%、高学年は33%、中学生で79%[1]に達し、上昇傾向にある。この現状にあって、「スマホを持たせている親の特性」を明らかにすることが本稿の目的である。この結果は、子がスマホを始めICT機器を活用する分析の基礎としたい。

2. 調査概要

調査時期: 2021年10月 調査方法: 訪問留置法

対象: 関東1都6県 小中学生とその親

標本抽出方法: QUOTA SAMPLING

性・子の年齢・都市規模で割付 サンプル数: 500

3. 分析方法

所有率が大きく異なっているため、第一段階は小学生と中学生に分けて分析を行う。小学生は「①スマホを所有させている群(28%)」「②持たせていない群(72%)」に分け、中学生は既に多くの人がスマホを持っていることから「①小学生から持たせている群(32%)」「②中学生になってから持たせた群(68%)」に分け、これを目的変数とする。なお、分析方法は、数量化理論第Ⅱ類を用い、それぞれ偏相関係数及びカテゴリースコアから親の特性を明らかにし、第二段階として2つの結果を比較しながら、考察を行う。なお、説明変数は「親の属性」「親のICTリテラシー(活用)」「子の属性」等、11項目とした。

4. 分析結果

小学生においては、判別グラフ及び各群の平均点より1群(所有)が正の方向に、2群(未所有)が負の方向に傾いた。なお、判別率的中率は78.1%、相関比 η^2 は0.33である。所有傾向が高いのは「(スマホを使うことで)料金の心配が少ない」「子の学年が高学年」「親のYouTube利用が多い」であった(図1)。次に中学生を分析すると、判別グラフ及び各群の平均点より1群(小学生から所有)が正の方向に、2群(中学生から所有)が負の方向であった。なお、判別率的中率は79.3%、相関比 η^2 は0.42である。小学生から所有している傾向が高いのは「キッズ

ケータイを早くから持たせている」「世帯収入が多い」「親のYouTube利用がやや多い」であった(図2)。



図1 小学生カテゴリースコア (偏相関係数上位)

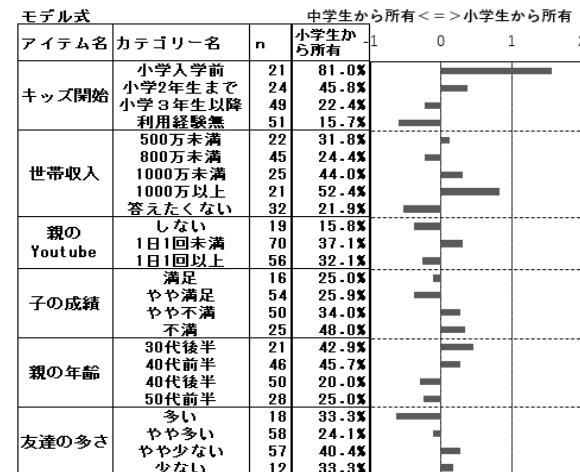


図2 中学生カテゴリースコア (偏相関係数上位)

5. 考察

今回の分析によって、「親のICTリテラシー」や「親のスマホへの考え」に関連する変数の偏相関係数が高い傾向が見られた。これは親のライフコースにも関係していると推察できるのではないかと。親の年齢も30代~50代と開きがあり、例えば親の20歳を基準として、その当時のICT機器との関りを見ると、ポケベル最盛期からスマホの普及が半数を超えた層まで様々である。その様な事が子のスマホ関わりへも影響している可能性もある。

参考文献

[1]NTTドコモ モバイル社会研究所
<https://www.moba-ken.jp/project/children/kodomo20220228.html>
(2022年2月28日)